

第5回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録

日 時：平成19年10月24日（火） 15：00～17：45

場 所：（財）日本建築総合試験所 大阪事務所（フルサトビル） 3F大会議室

出席者：鎌田会長，葛目幹事，森幹事，永山幹事，吉田，内田（記録）

以上6名（順不同，敬称略）

配布資料：5-0 第5回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事次第

5-1 第4回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録（案）

5-2 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会資料：内田

5-3-1 実構造物の表層透気性の非・微破壊試験方法に関する研究の現状：永山幹事

5-3-2 高性能再生コンクリート（HiRAC）研究会 耐久性試験報告書：永山幹事

5-4 グラウト充填評価供試体の作製および

インパクトエコー法による未充填評価について：葛目幹事

5-5 関連雑誌への記事の投稿について：内田

議 事：

1. 会長挨拶

開催の挨拶が鎌田会長よりあった。

2. 第5回議事次第

鎌田会長より，本日の交流会の進め方について説明があった。

3. 第4回議事録（案）の確認

内田より説明があり，内容確認が行われ承諾された。

4. 話題提供

- (1) 内田より，土木学会 コンクリート委員会 3種委員会 「コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会」の活動紹介があった。委員会の方向性についての意見交換が行われた。
- (2) 「コンクリートの透気試験」についての紹介を永山幹事が行った。まず，3つの透気試験方法についての概説があった。続いて，透気係数についての解釈方法や RILEM で提案されている試験方法の説明があった。この試験方法は，コンクリートの含水率の影響を受けやすいため，場所によって透気係数が増えるものの，同一箇所での再現性は非常に高く，さらに中性化深さの推定も可能であるとの説明があり，大変興味深い内容であった。
- (3) 葛目幹事より，「インパクトエコー法によるグラウト充填評価」についての紹介があった。今回の計測結果はいずれもグラウトが充填される前のものであった。シーす埋設深さが小さいほど，シーす直径が小さいほど，空隙部からの反射波によるピークが生成されにくくなるとの報告があったが，シーす埋設深さに関しては更に考察を加えるという説明であった。

5. 関連雑誌への記事の投稿について

内田より、関連雑誌への記事の投稿原案が紹介された。ONDA会の今後の発展へのきっかけになればとの期待が寄せられた。

6. 今後の予定

第6回交流会：平成19年12月26日（水）15：00～17：00

場所：非破壊検査株式会社 本社 会議室

以上

（記録：内田）